

概 要

1 目的

従来の情報源は、テレビ、新聞が主流であったものが、ここ十数年の間にインターネットが大きく台頭し、情報メディアとしての地位を確立してきている。情報メディアの多様化が進み、情報量が増大する中で、人々は、必要な情報を取得するため、そのジャンルによって情報源を取捨選択している状況にあり、情報源がもたらす情報が人々の意識や行動に多大な影響を及ぼしているものと考えられる。

そこで本調査では、科学技術情報の主要取得源により科学技術に関する意識等に違いがあるかについて調査分析を行った。

2 調査方法

インターネット調査会社の保有する登録モニターのうち、全国 15～69 歳を対象に無作為に調査依頼メールを送信し、依頼に応じた登録モニターがインターネット上に設置している調査画面にアクセスして回答する方法(Web 調査)により、2014 年 10 月 25 日(土)～10 月 28 日(火)にかけて実施した。なお、回収サンプル数は、性・年代別の各層 200 サンプル、合計で 2,400 サンプルである。回答者の主な属性は下表のとおりである。

表 回答者プロフィール

【性別】

| | 男性 | 女性 |
|-------------|-------|-------|
| 全体 (n=2400) | 50.0% | 50.0% |

【年代】

| | 15～19歳 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 |
|-------------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 男性 (n=1200) | 16.7% | 16.7% | 16.7% | 16.7% | 16.7% | 16.7% |
| 女性 (n=1200) | 16.7% | 16.7% | 16.7% | 16.7% | 16.7% | 16.7% |

【居住地域】

| | 北海道 | 東北 | 関東 | 北陸 | 中部 | 近畿 | 中国 | 四国 | 九州・沖縄 |
|-------------|------|------|-------|------|-------|-------|------|------|-------|
| 男性 (n=1200) | 3.3% | 4.2% | 47.7% | 3.9% | 12.7% | 16.0% | 3.6% | 2.1% | 6.7% |
| 女性 (n=1200) | 4.3% | 5.0% | 40.5% | 2.3% | 13.3% | 19.3% | 5.3% | 2.0% | 8.0% |

【最終学歴】

| | 中学校 | 高等学校 | 高等専門学校 | 短期大学 | 専修学校専門課程 | 大学 | 大学院修士課程 | 大学院博士課程 | その他 |
|-------------|------|-------|--------|-------|----------|-------|---------|---------|------|
| 男性 (n=1200) | 2.6% | 26.8% | 3.3% | 0.8% | 5.4% | 51.8% | 6.5% | 2.8% | - |
| 女性 (n=1200) | 2.4% | 32.1% | 3.2% | 17.2% | 8.6% | 34.7% | 1.7% | 0.1% | 0.2% |

3 主要な調査結果

(1) 科学技術情報の取得源

- 科学技術情報の取得源(複数選択)は、2008年調査と比べ、インターネットの依存度が上昇。
- 科学技術情報の主要取得源(単数選択)は、男性の場合、インターネット、テレビ、新聞、本/雑誌の順に、女性の場合、テレビ、インターネット、新聞、家族や友人、知人の話の順に依存度が高い。
- 年代が高いほど、新聞の依存度が高く、インターネットの依存度が低い。

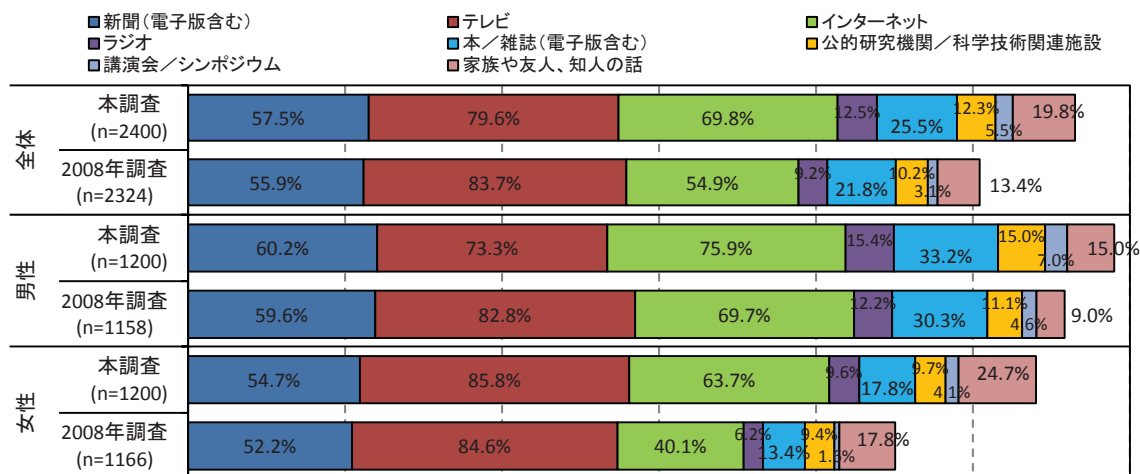


図1 科学技術情報の取得源(複数選択)

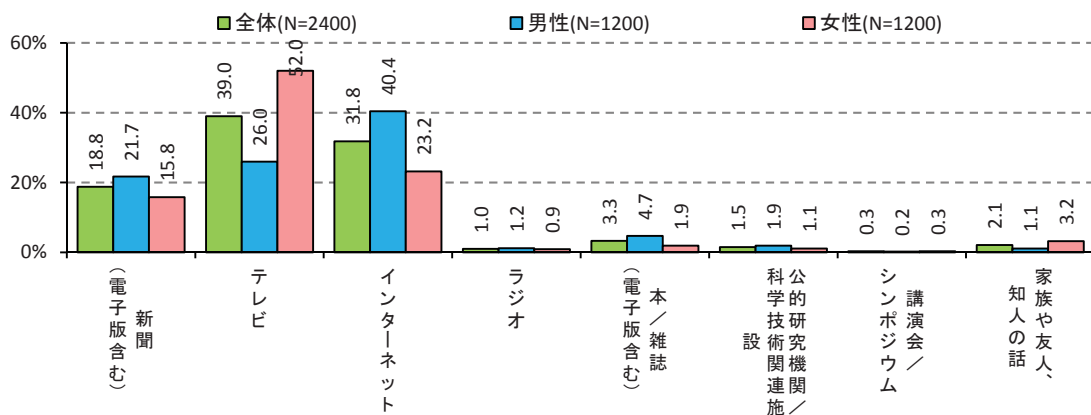


図2 科学技術情報の主要取得源(単数選択:性別)

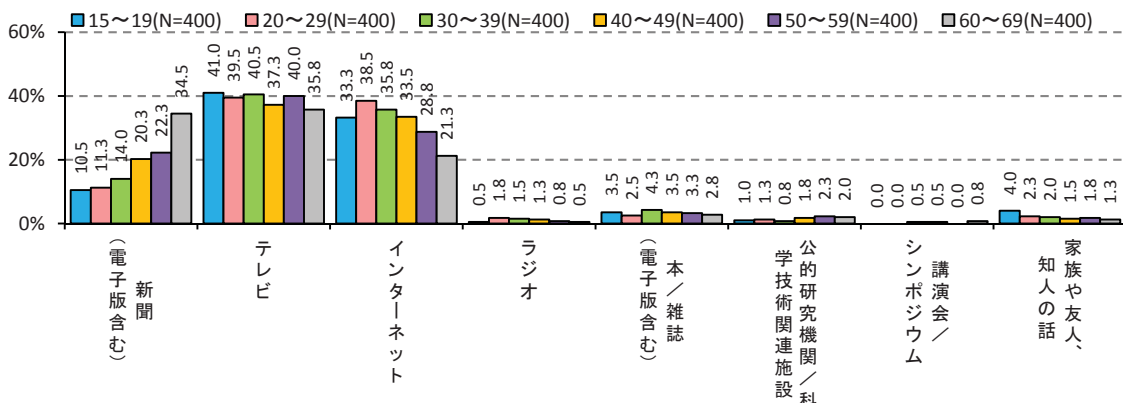


図3 科学技術情報の主要取得源(単数選択:年代別)

(2) 科学技術情報の主要取得源と情報媒体接触状況

- 科学技術情報の主要取得源が『新聞』の者の多くは、新聞、テレビ、インターネット、万遍なく毎日のように接触しているおり、新聞だけが突出しているわけではない。
- 科学技術情報の主要取得源が『テレビ』又は『インターネット』の者の多くは、テレビ、インターネットに毎日のように接触しているおり、新聞の割合が低い。
- 科学技術情報の主要取得源が『本／雑誌』の者は、本や雑誌に毎日のように接触している者が他と比べ多いものの、その多くは、他と同程度、テレビ、インターネットに毎日のように接触しており、本や雑誌だけが他の情報媒体より高いわけではない。
- 科学技術の主要取得源と日常的に接触している情報媒体との関連は薄い。

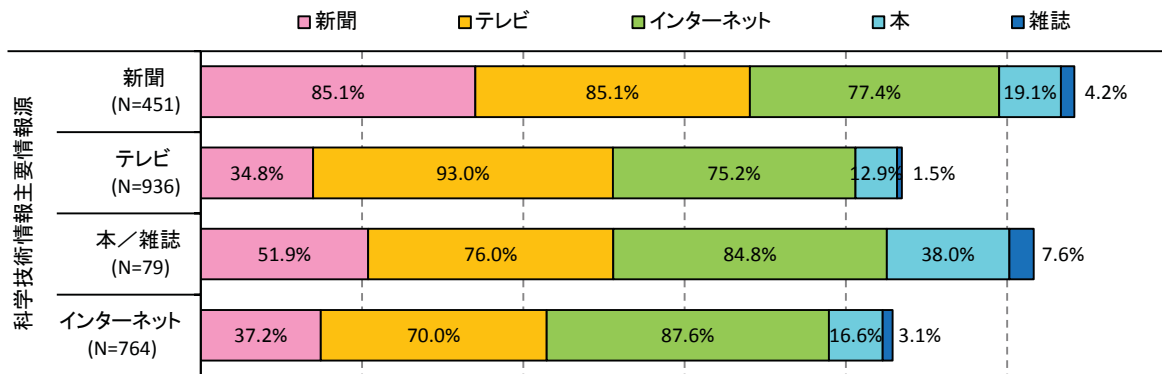


図 4 「ほぼ毎日のように」接触しているメディア

(3) 科学技術情報の主要取得源と科学技術に関する知識

- 科学技術情報の主要取得源が『本／雑誌』の者は、他と比べ、科学技術に関する知識があるとする者が非常に多い。
- 次いで、『新聞』及び『インターネット』の者が同程度で拮抗しており、『テレビ』の者が最も少ない。

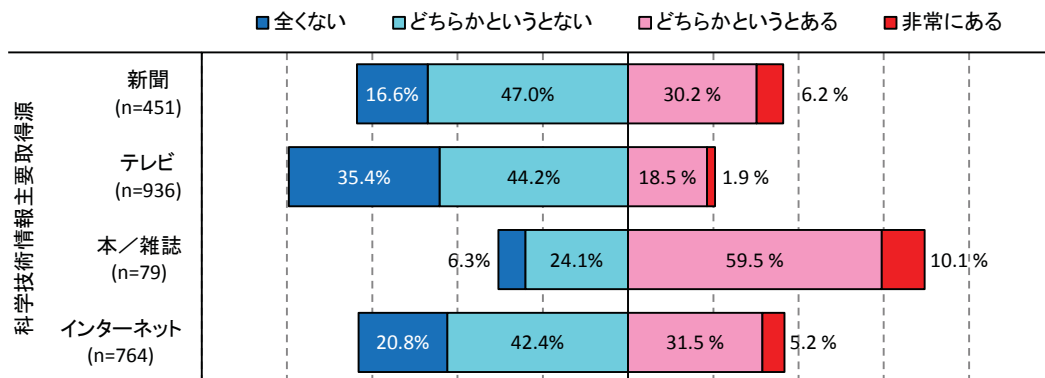


図 5 科学技術に関する知識の自己申告状況

(4) 科学技術情報の主要取得源と施設の訪問状況

- 科学技術情報の主要取得源により、『新聞』・『本／雑誌』及び『テレビ』・『インターネット』の2グループに大別される。
- 両グループの間には、博物館など科学技術関連施設及び図書館の訪問との関連、並びに施設訪問の有無との関連度の違いがあり、動物園など動植物関連施設及び美術館など文化的施設の訪問との関連度には大きな違いが見られない。

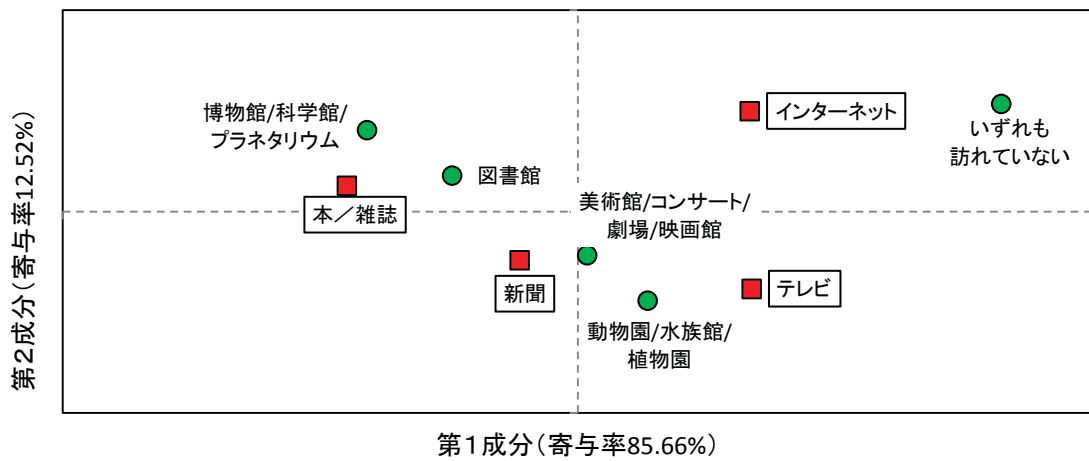


図 6 施設訪問状況(過去1年)のコレスポネンス分析ⁱ

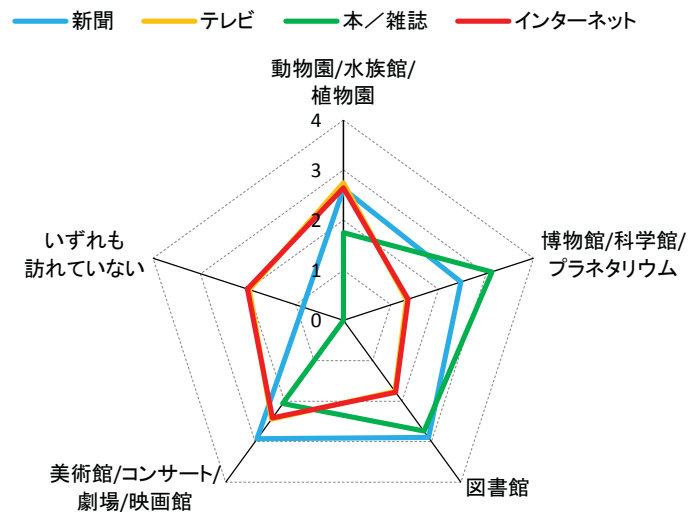


図 7 科学技術情報の主要取得源と施設訪問の関連度ⁱⁱ

ⁱ 2つの変数群(要素群、要因)の関連性を分析する手法であり、行要素と列要素の相関関係が最大となるように数値化し、行要素と列要素の関連の強さ(因果関係)を平面上の距離に置き換えて表現したもの。以下同じ。
ⁱⁱ コレスポネンス分析により得られたスコアを用いて本文の式 3.1 により数値化した結果であり、数値が大きいほど関連が高いことを表す。以下同じ。

(5) 科学技術情報の主要取得源と科学技術関連話題の関心

○総体的に科学技術関連話題に対する関心は、科学技術情報の主要取得源が『本／雑誌』の者が最も高く、『テレビ』の者が最も低い。科学技術情報の主要取得源が『新聞』の者と『インターネット』の者は同程度である。

○新しい技術や発明の利用、新しい科学的発見、新しい医学的発見、宇宙探査・開発の話題に対する関心は、米国と比べ低い。

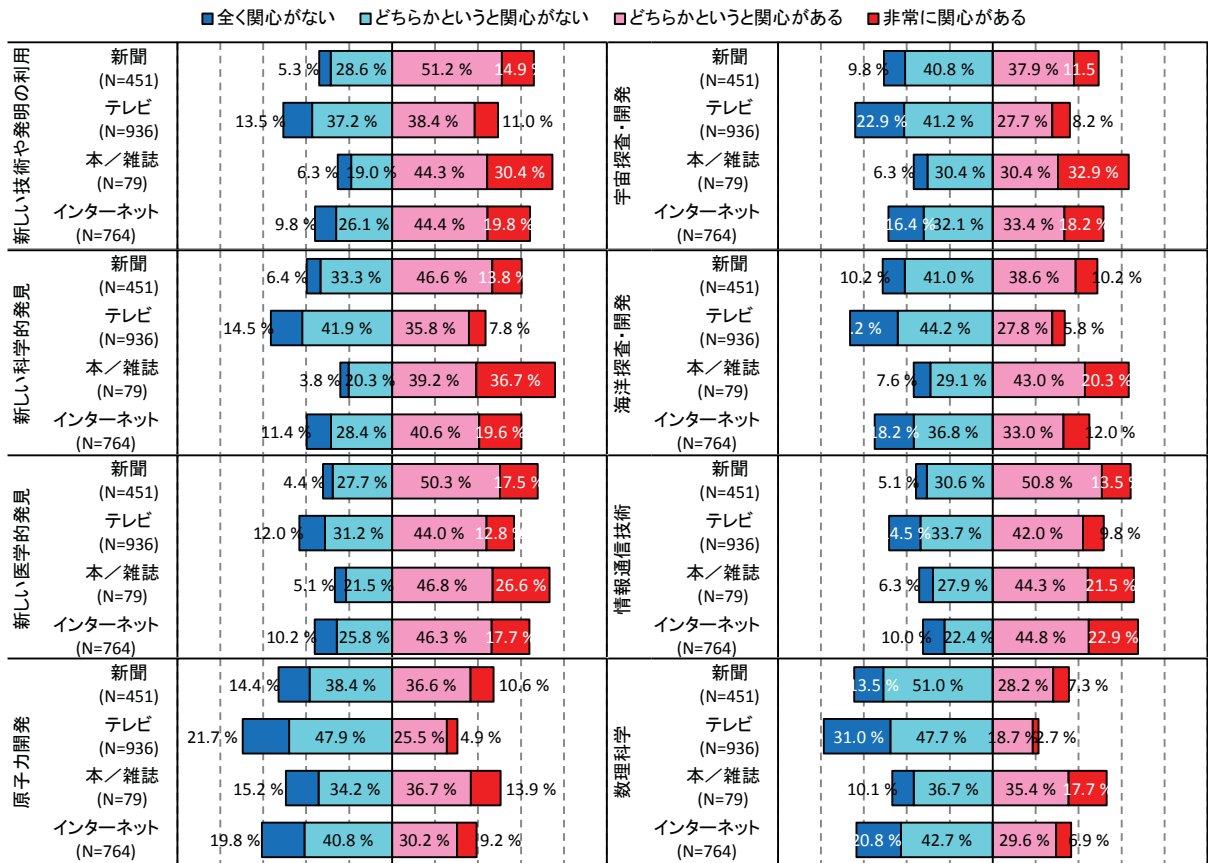


図 8 科学技術関連話題に対する関心

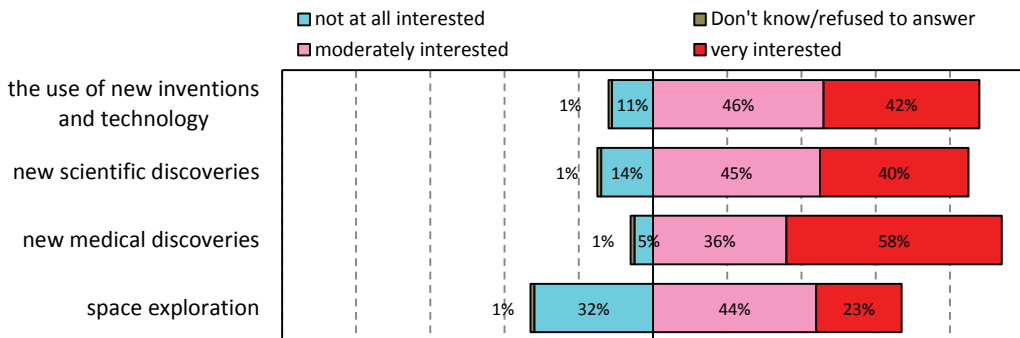


図 9 米国における科学技術関連話題に対する関心

○科学技術情報の主要取得源により、『本／雑誌』、『テレビ』及び『新聞』・『インターネット』の3グループに大別される。

○『本／雑誌』グループは、他と比べ、「新しい医学的発見」や「情報通信技術」の関心との関連が低く、『テレビ』グループは、「新しい科学的発見」、「宇宙探査・開発」、「海洋探査・開発」の関心との関連が低い。『新聞』・『インターネット』グループは、「数理科学」を除く科学技術関連話題の関心との関連が高い。

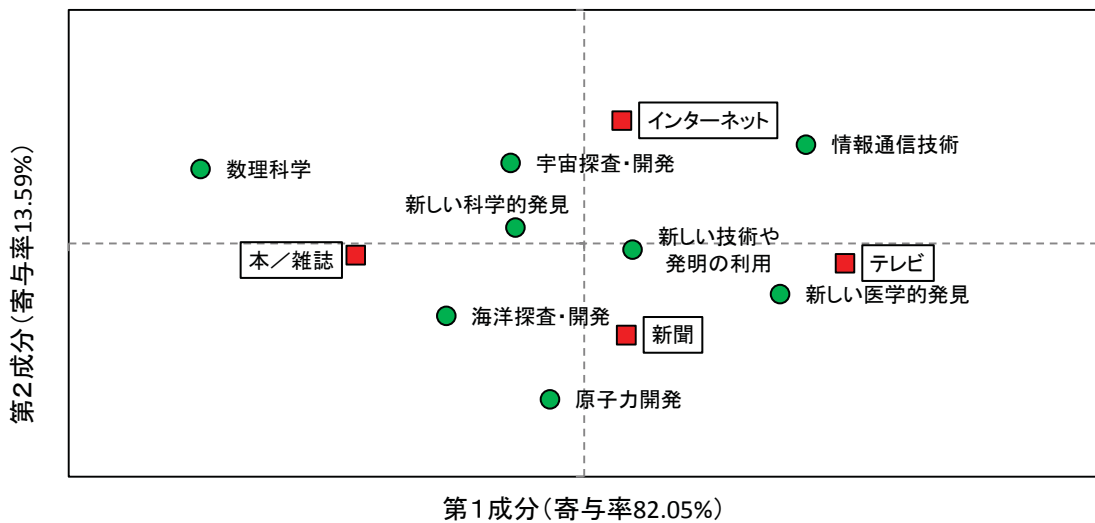


図 10 科学技術関連話題に対する関心のコレスポンデンス分析

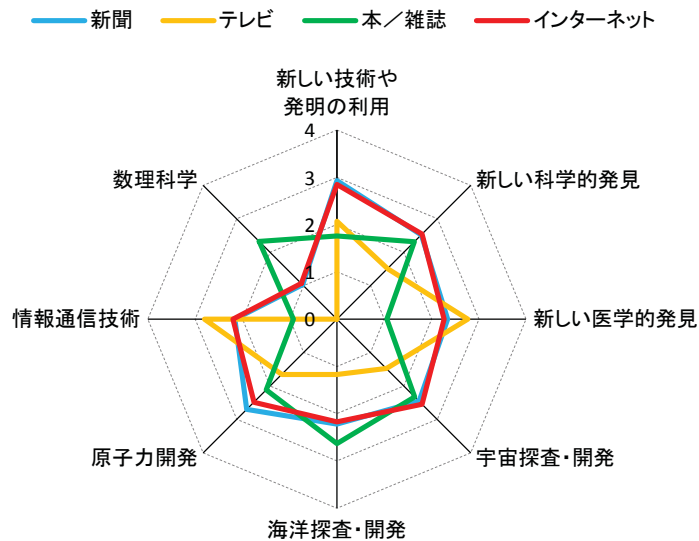


図 11 科学技術情報の主要取得源と科学技術関連話題に対する関心の関連度

(6) 科学技術情報の主要取得源とネガティブ情報の受け取り方

- 科学技術情報の主要取得源により、『本／雑誌』、『テレビ』及び『新聞』・『インターネット』の3グループに大別される。
- 『本／雑誌』グループと『テレビ』グループは、対極的な関係にある。『本／雑誌』グループは、ネガティブ情報をそのまま信じることなく、さらに詳しく調べる傾向や情報を共有する傾向が強いのに対し、『テレビ』グループは、ネガティブ情報を疑うことなく、さらに詳しく調べることをしない傾向が強い。

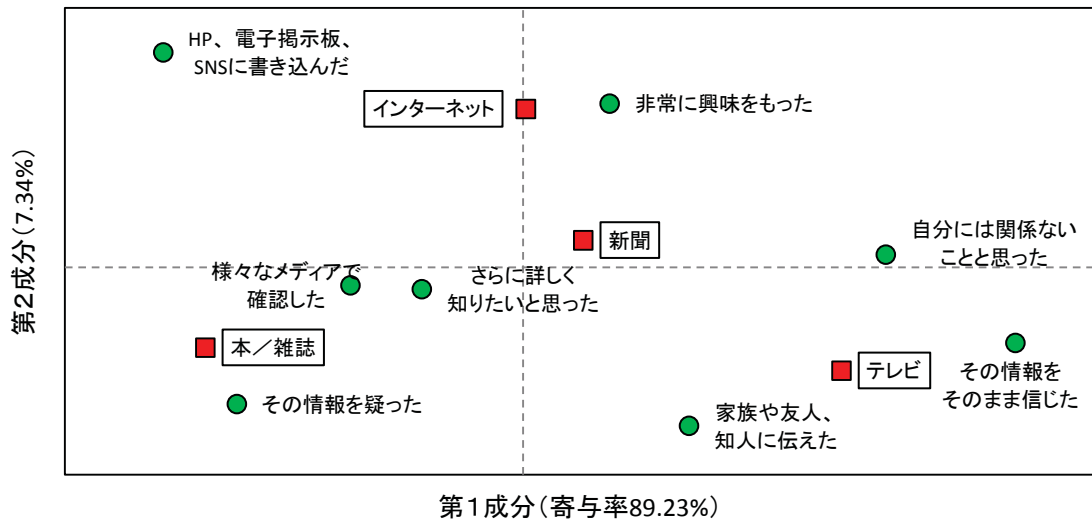


図 12 ネガティブ情報の受け取り方のコレスポンデンス分析

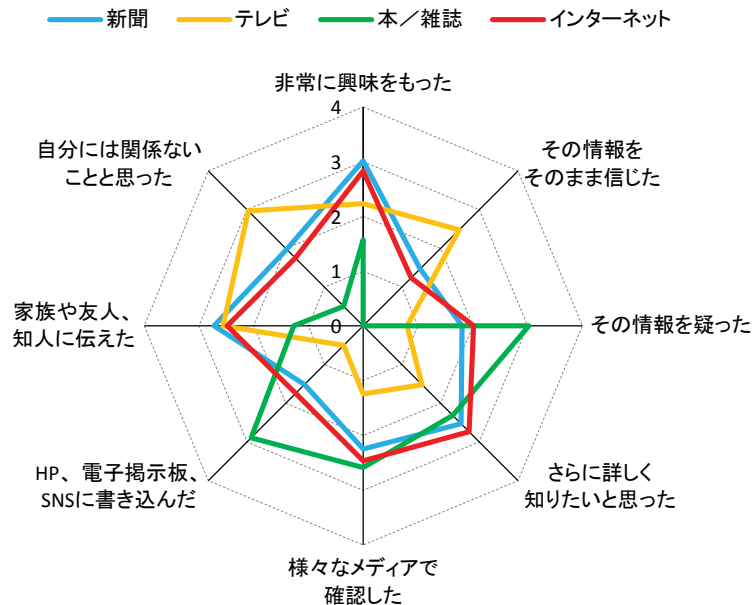


図 13 科学技術情報の主要取得源とネガティブ情報の受け取り方の関連度

(7) 科学技術情報の主要取得源とネガティブ情報において意見や判断を左右した情報

- 科学技術情報の主要取得源により、『新聞』『テレビ』及び『本／雑誌』『インターネット』の2グループに大別される。
- 『新聞』『テレビ』グループは、『本／雑誌』『インターネット』グループと比べ、マスメディアの記者や著名人、評論家等に左右される傾向が強いのに対し、『本／雑誌』『インターネット』グループは、『新聞』『テレビ』グループと比べ、科学技術関連機関、行政機関、一般の人や家族・友人・知人に左右される傾向が強い。

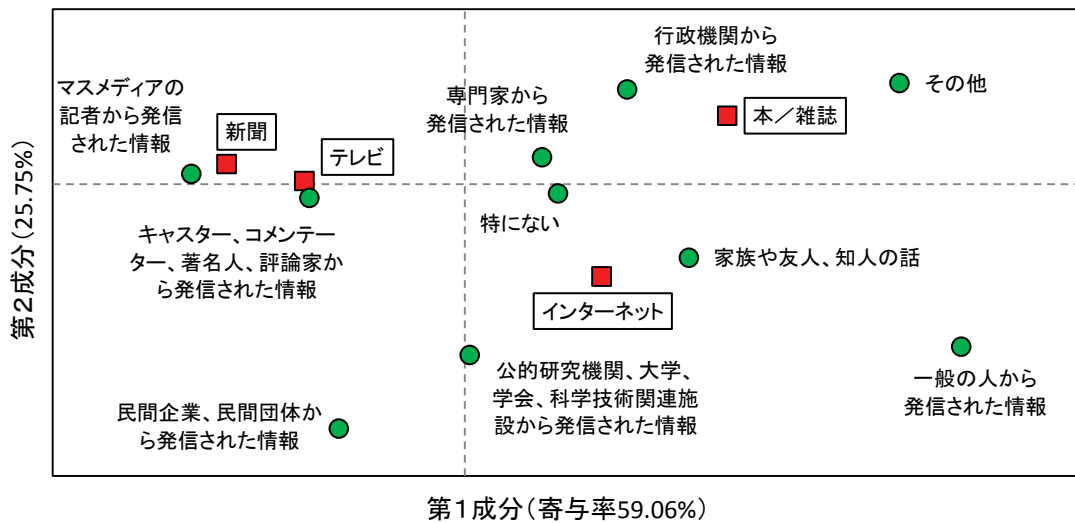


図 14 最も意見や判断を左右した情報のコレスポネンス分析(ネガティブ情報)

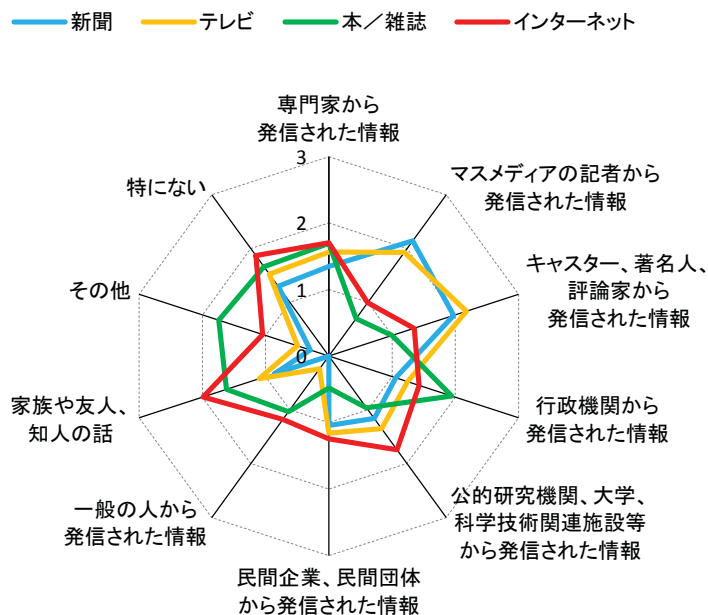


図 15 科学技術情報の主要取得源と最も意見や判断を左右した情報の関連度(ネガティブ情報)

(8) 科学技術情報の主要取得源と科学技術情報の信頼

○科学技術情報の主要取得源による違いが大きいのは、マスメディアの記者の話及び著名人や評論家の話であり、科学技術情報の主要取得源が『新聞』『テレビ』の者の信頼度が高い。

○科学者や医師、行政機関の情報に対する信頼は、米国と大きな違いは見られない。

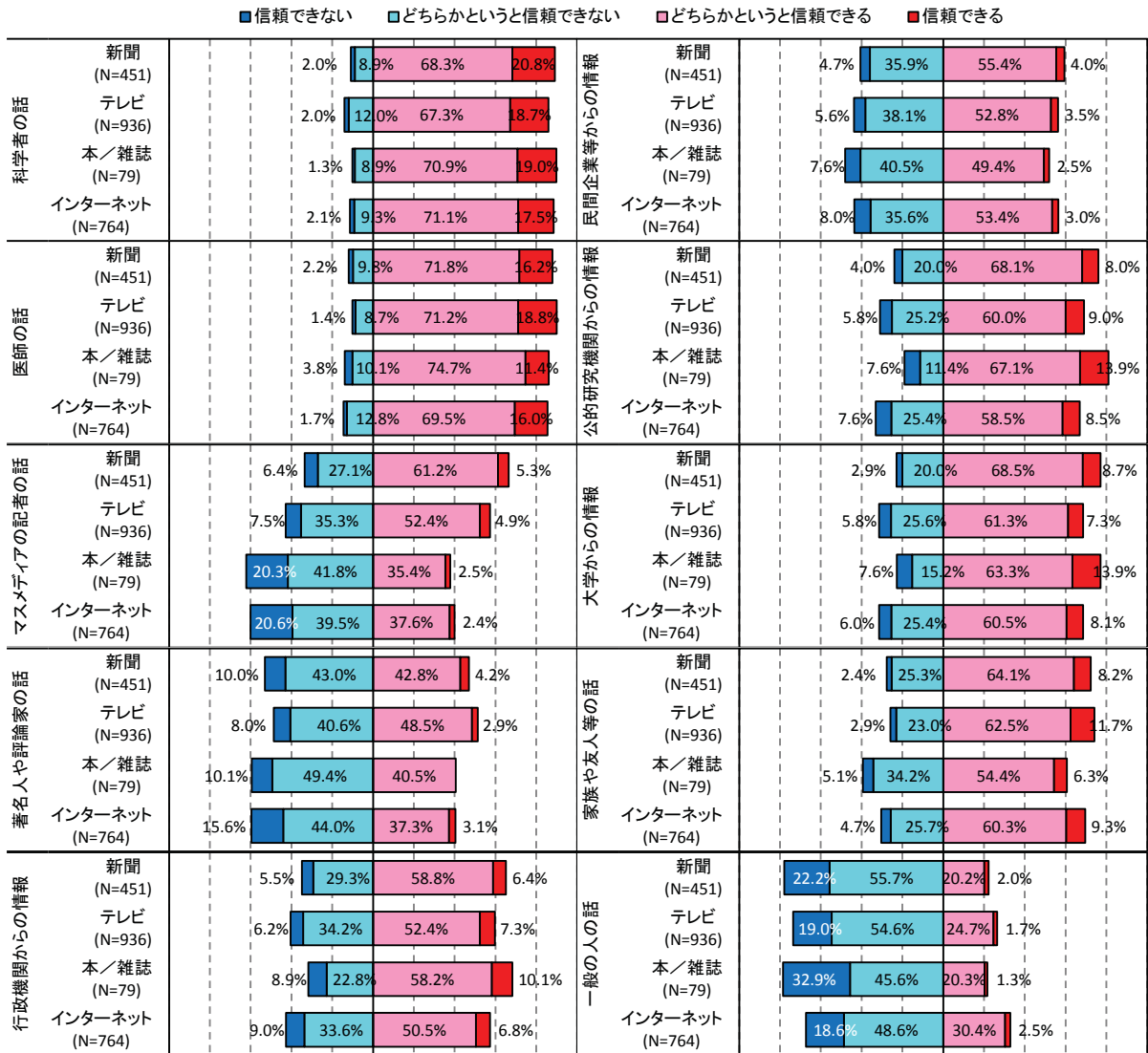


図 16 科学技術情報の信頼

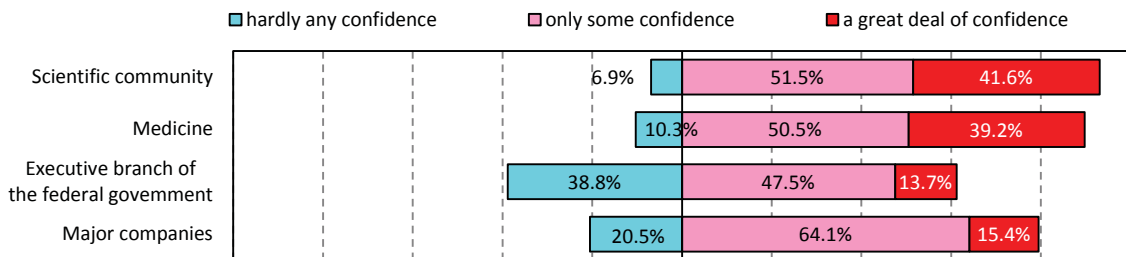


図 17 米国における情報発信機関の信頼

(9) 科学技術情報の主要取得源と科学技術情報の提供状況に関する意識

○科学技術情報の主要取得源が『本／雑誌』・『インターネット』の者は、『新聞』・『テレビ』の者と比べ、新聞及びテレビによる科学技術情報の提供が少ないと感じている。

○一方、科学技術情報の主要取得源が『新聞』・『テレビ』の者は、『本／雑誌』・『インターネット』の者と比べ、公的研究機関や大学、科学者など科学技術関連機関等による科学技術情報の提供が少ないと感じている傾向が見られる。

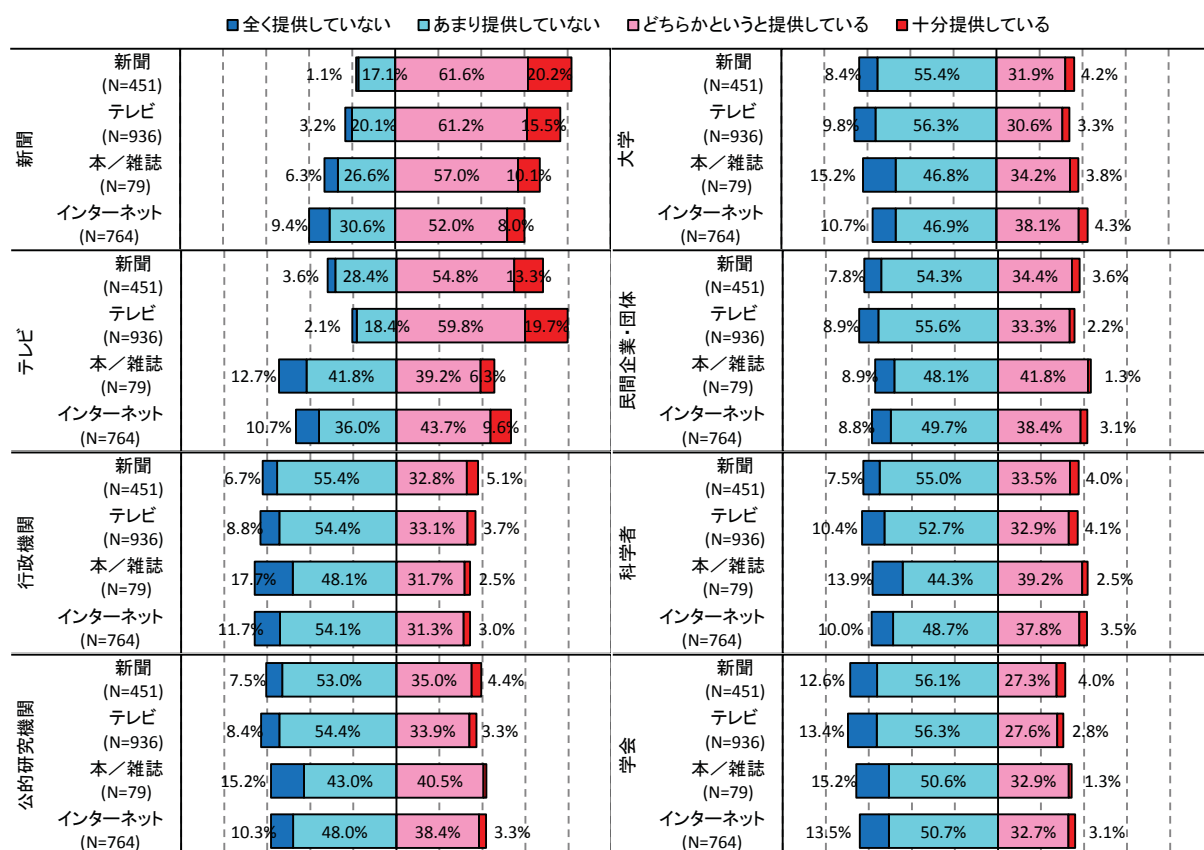


図 18 科学技術情報の提供状況に関する意識

(10) 科学技術情報の主要取得源と不足している科学技術情報

- 科学技術情報の主要取得源により、『新聞』・『テレビ』・『インターネット』及び『本／雑誌』の2グループに大別される。
- 『本／雑誌』グループは、『新聞』・『テレビ』・『インターネット』グループと比べ、不足している情報として、深く掘り下げられている情報や幅広い情報、根拠や取得源が明確な情報との関連が高い。
- 一方、『新聞』・『テレビ』・『インターネット』グループは、『本／雑誌』グループと比べ、不足している情報として、迅速な情報、信頼性の高い情報、簡潔でわかりやすい情報、メリットやデメリットに関する情報との関連が高い。

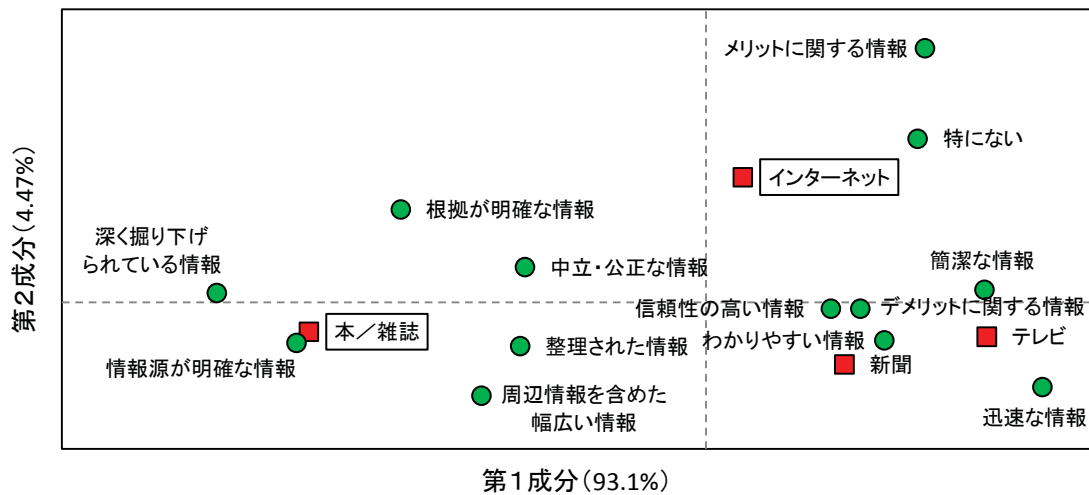


図 19 不足している科学技術情報のコレスポンデンス分析

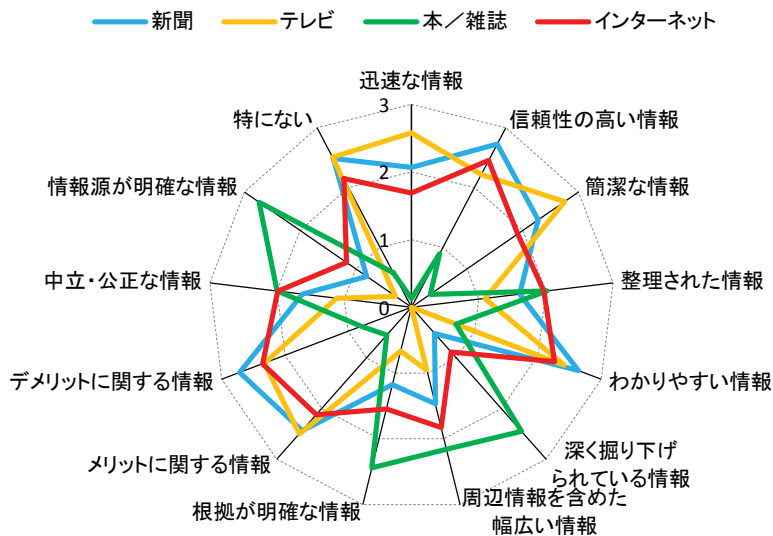


図 20 科学技術情報の主要取得源と不足している科学技術情報の関連度

(11) 科学技術情報の主要取得源と科学技術に関連する意見に対する意識

- 最も科学技術情報の主要取得源による違いが見られるのは、科学知識の重要性意識であり、『本／雑誌』の者が非常に高い。
- 科学技術情報の主要取得源による違いが見られないのは、生活の利便性向上意識、次世代の機会の増加意識、ゼロリスク意識、専門家による決定意識である。
- それ以外については、おおむね『新聞』・『本／雑誌』の者が『テレビ』・『インターネット』の者と比べ、同意度が高い傾向にある。

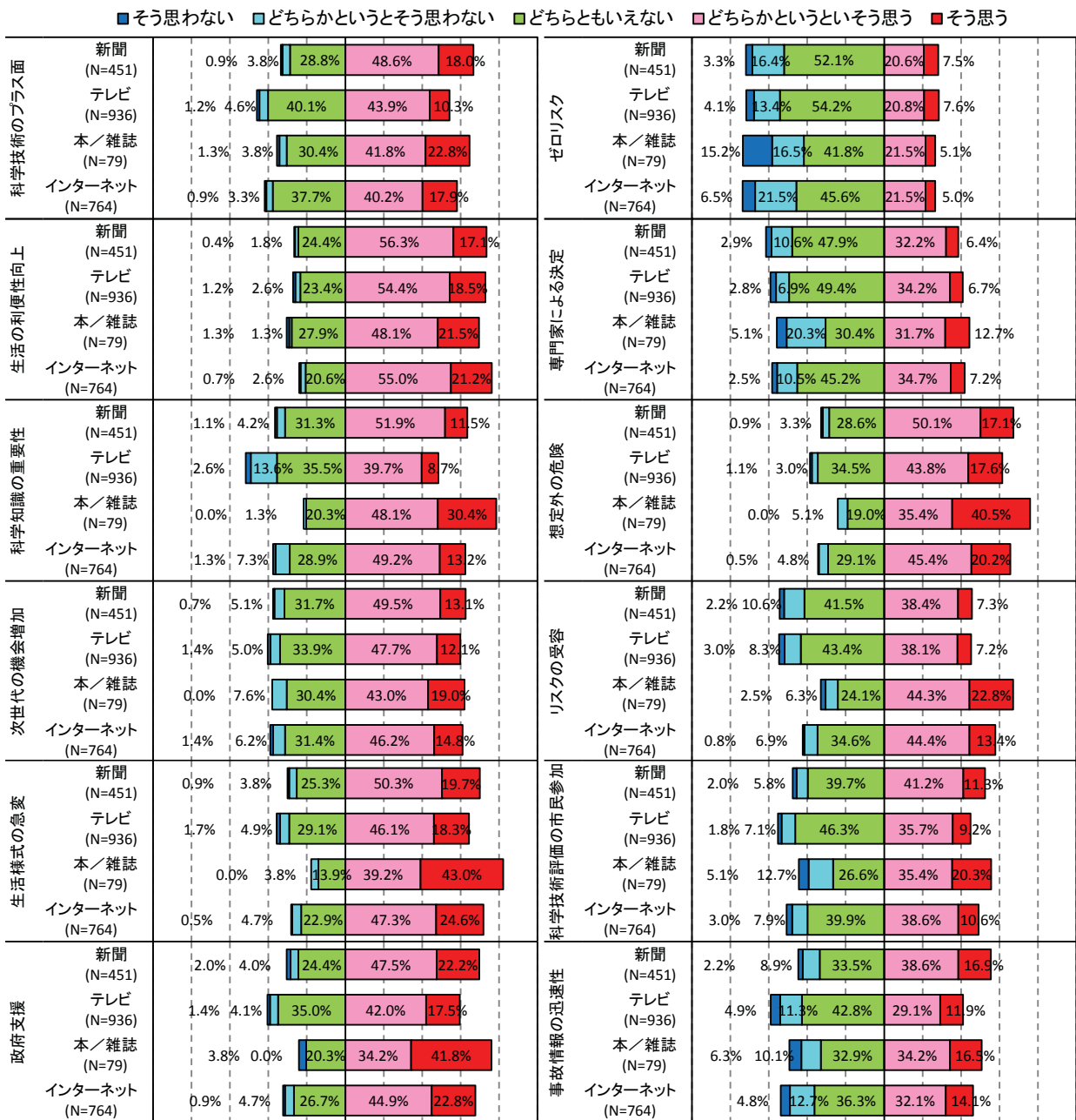


図 23 科学技術に関連する意見や考えに対する意識

(12) 科学技術情報の主要取得源と重視する科学技術の評価事項

- 科学技術情報の主要取得源により、『新聞』・『テレビ』・『インターネット』及び『本／雑誌』の2グループに大別される。
- 『本／雑誌』グループは、『新聞』・『テレビ』・『インターネット』グループと比べ、技術的コントロール、社会規制による誤用・悪用の防止を重視する傾向が強い。
- 一方、『新聞』・『テレビ』・『インターネット』グループは、『本／雑誌』グループと比べ、開発・利用する主体の信頼、経済的豊かさ、社会における必要性、責任の所在、事故の規模や起こる確率を重視する傾向が強い。

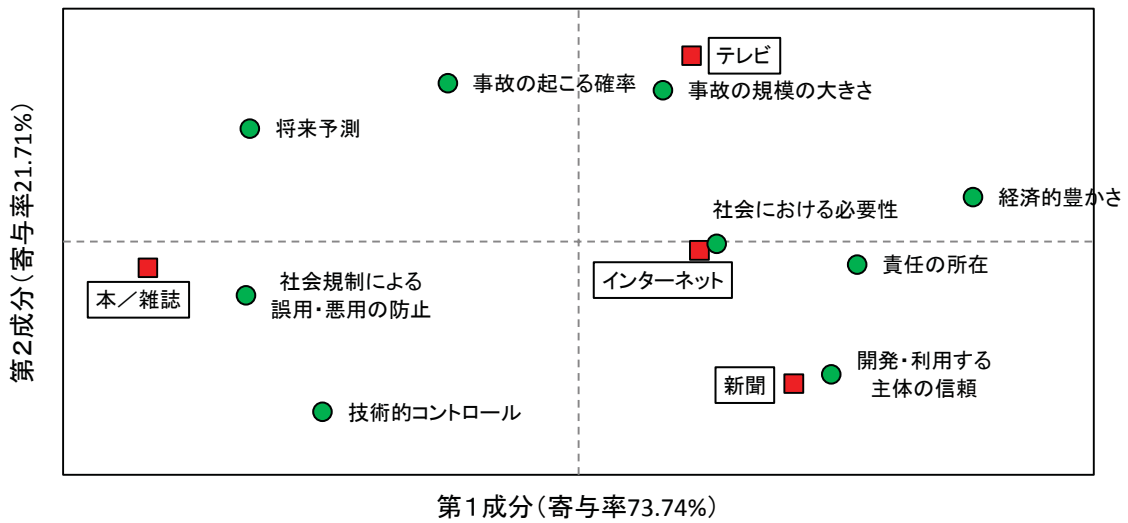


図 21 重視する科学技術の評価事項のコレスポンド分析

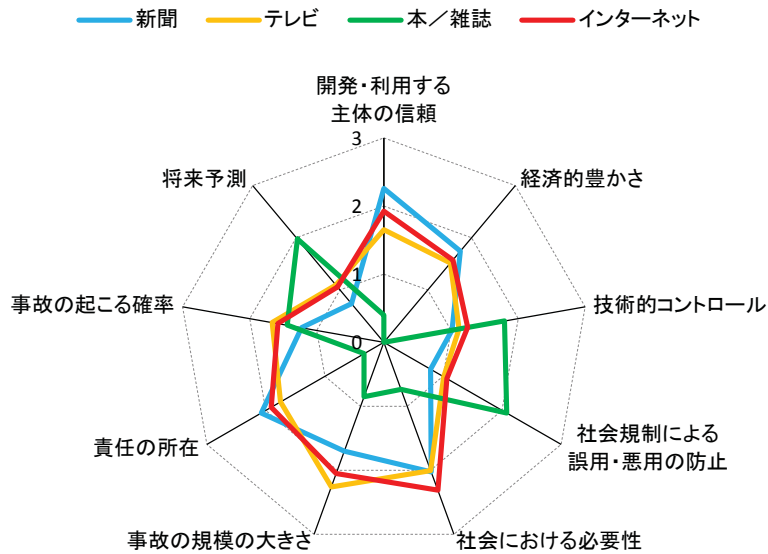


図 22 科学技術情報の主要取得源と重視する科学技術の評価事項の関連度